

1月27日（金）、第61回附属幼稚園研究発表会を開催しました。県内外から約220名の参会者をお迎えし、盛会裏に終えることができました。



～しっぽとり～

思いや考えを出し合いながら、友達と遊びを進めていくことを楽しめるように。

## 1. 研究の概要

### (1) 研究テーマについて

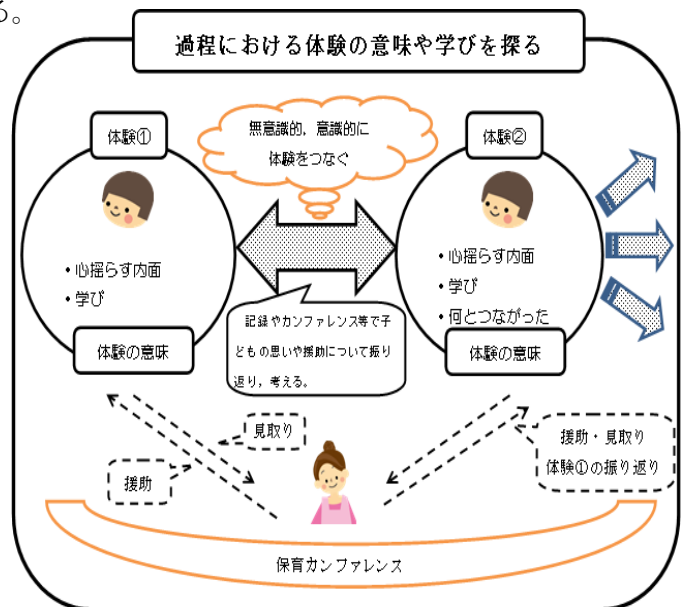
子どもたちの生活を支えることを一人一人の子どもの育ちが充実することだと考え、“体験”をキーワードにして研究を進めてきました。前年度は、一つ一つの体験を丁寧に見取り、今年度体験と体験のつながる過程を見取することを研究の柱としています。体験のつながる過程において、子どもがどのような育ちを歩んでいるのかを見取することで、子どもの生活を支えていきたいと考えています。

### (2) 研究の目的・内容・方法

目的：一つ一つの体験がどのようにつながっているのか、また、その過程においての子どもの体験の意味や学び、教師の援助について探る。

内容（右図参照）：①子どもが一つの体験の中で心を揺らしている内面やその人にとっての体験の意味、学びを探っていく。②子ども自身が何をつないでいるのか、何とつながろうとしているのか、結果的に何とつながったのか過程を通してどのような意味や学びがあったのかを探る。③豊かな体験を支える教師の援助を探る。

方法：保育記録を基に、子どもや遊びを理解する。また、日々の保育のことや事例検討やのカンファレンスを行うことで、多様な意見を出し合い、考えを深め合い、それらを積み重ねていく。



## 2. 研究の成果・課題

成果として、明らかになったことは以下の通りです。

- 同じ遊びの中にも、一人一人が体験していることは違い、体験の意味が一人一人にあること。
- 同じ遊びの中で興味関心をもつ、試行錯誤する、葛藤するなど体験は繰り返されていること、また、繰り返されることにより、体験の質は広がったり深まったりしていること。
- 体験の中には、多様な学びがあること。
- 体験がつながる過程は、子どもの育ちの過程であること。
- 体験がつながるためには、1つ1つの体験を十分に保障されることが大切であること。
- 1つの体験は多様な体験へとつながる可能性をもっていること。

今後の課題は、

- 体験がつながる過程をさらに長いスパンで追い、育ち(学び)の過程をとらえる。
- 体験が生かされ、新たな体験となったときのつながりを探る。
- 個の体験と集団の体験のつながりを探る。

です。来年度に向けて、これらの研究を進めていきたいと考えます。